

北見信用金庫 スマート農機導入支援取組みについて

2024年9月2日



北見信用金庫

地域金融支援部 部長 岡村 勝英

1. 自己紹介
2. 北見信用金庫について
3. 北見市とオホーツク地域
4. 取組事例
5. 自給率向上とSDGs

- 1968年(昭和43年) 北海道北見市出身 56歳
- 1991年(平成3年) 北見工業大学 電子工学科卒
- 1991年(平成3年) 北見信用金庫 入庫
- 2003年(平成15年) 中小企業診断士 登録
- 2004年(平成16年) 審査部 経営改善支援課 係長
- 2016年(平成28年) 地域金融支援部 副部長
- 2019年(平成31年) 南大通支店 支店長
- 2020年(令和2年) 地域金融支援部 部長(現任)



営業エリアは北海道の38%をカバー
(信用金庫では日本一の広さ)
(中国地方5県と同じ面積)

創立：昭和5年11月

預金：558,786百万円(道内4位)

融資：190,206百万円

店舗：29

職員：265名 (R6.3末)

「まちの元気」「お客様の元気」「職員の元気」がコンセプトの本店

太陽光発電(高い日照率、道東は太陽光利用のメッカ)

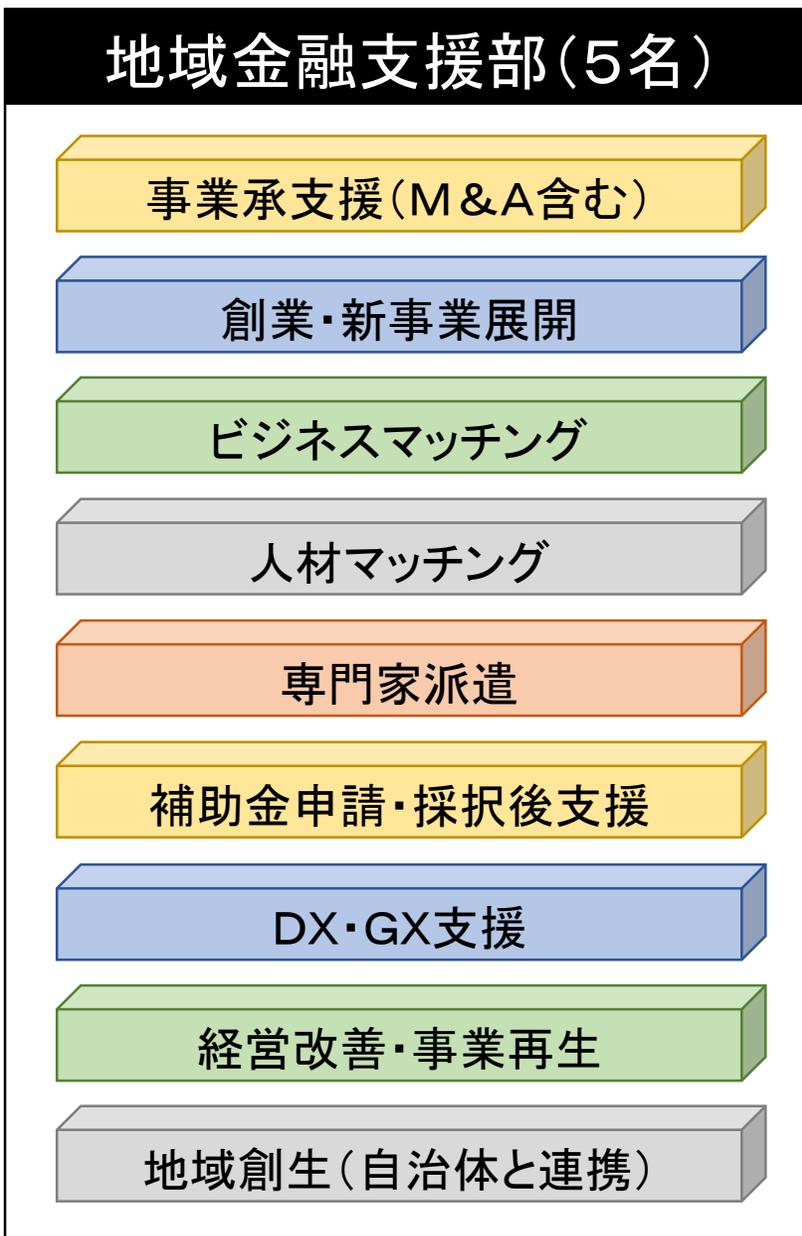
LEDによる夜間ライトアップ(街に明かりを)

営業エリア内の産業

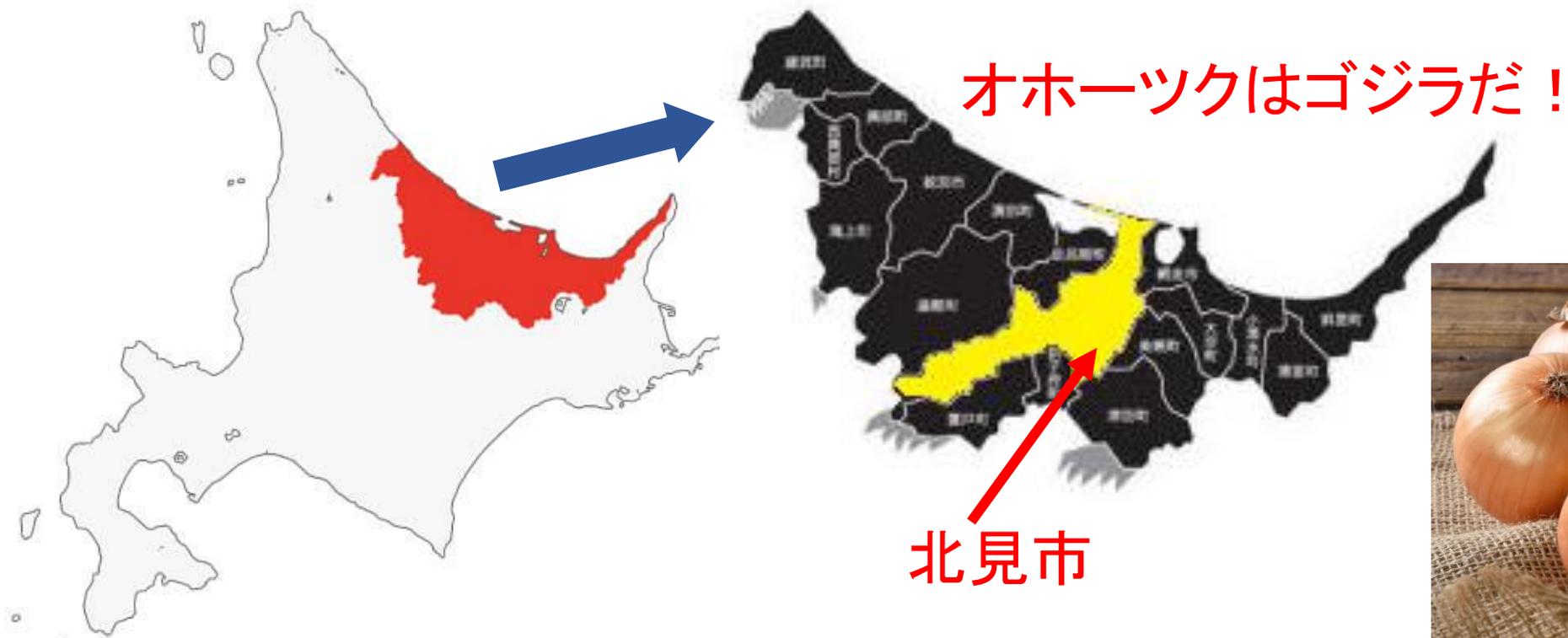
- 基幹産業は一次産業
- 食品に対するニーズは高い
- 農産物は素材がメイン
食品加工物は少ない
- 水産加工品は輸出多い
- 道産の森林資源が見直されている
- 物流問題の影響が大きい
- 観光資源が多い

経営支援活動の体制

- 営業店
- 事業者
- 自治体



- 信金中央金庫
- 自治体
- 支援機関
- 専門家



玉ねぎ列車

	面積	玉ねぎ	馬鈴薯	小麦
全国	377,973km ²	1,171,000 t	1,904,000 t	993,500 t
北海道	83,423km ² (22.0%)	825,800 t (70.5%)	1,819,000 t (95.5%)	614,200 t (61.8%)
オホーツク	10,691km ² (2.8%)	486,480 t (41.5%)	684,900 t (35.9%)	162,800 t (16.3%)

出典：農林水産省「作物統計調査」

北見市の特色



カーリング(ロコ・ソラーレ) 赤いサイロ(清月)



焼肉の街”北見“

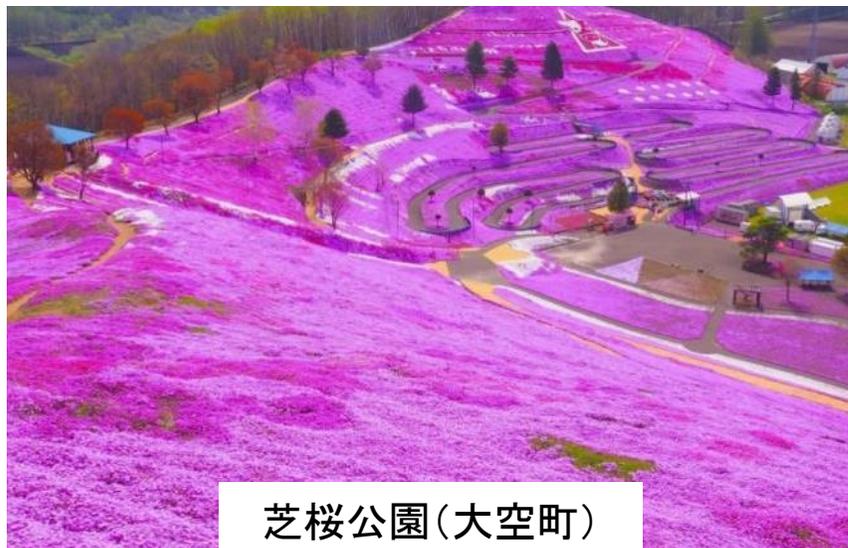


牛の尿から生まれたバイオ消臭液
(環境大善)



ハッカ油スプレー
(北見ハッカ通商)

オホーツクの魅力



芝桜公園(大空町)



ガリンコ号(紋別市)



屈斜路湖・美幌峠



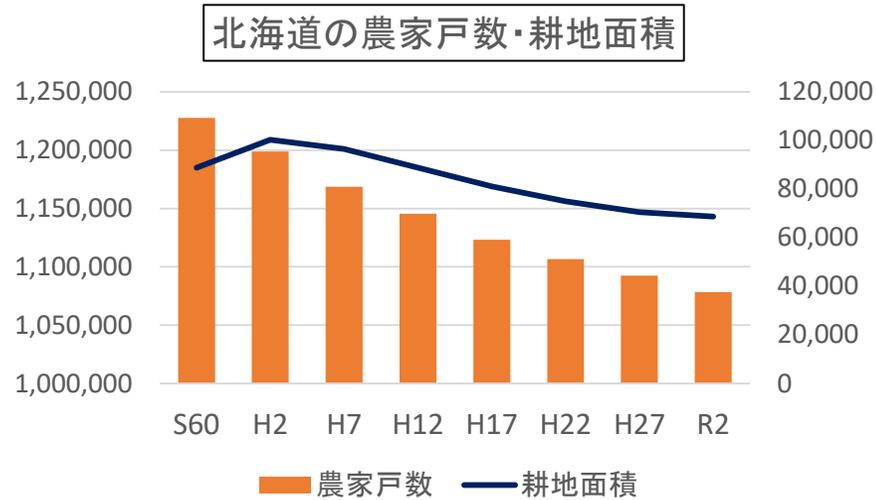
東京オリンピックメダルケース
(山上木工)

補助金活用によるスマート農機の導入による化学肥料使用量の削減

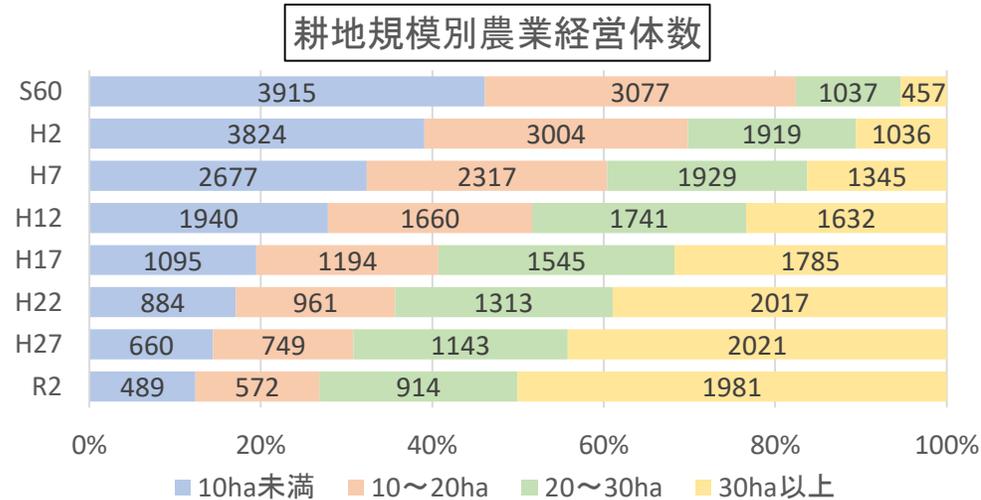


GPS付肥料散布機「ブロードキャスター」

1. 背景



出典：農林水産省「耕地面積調査」



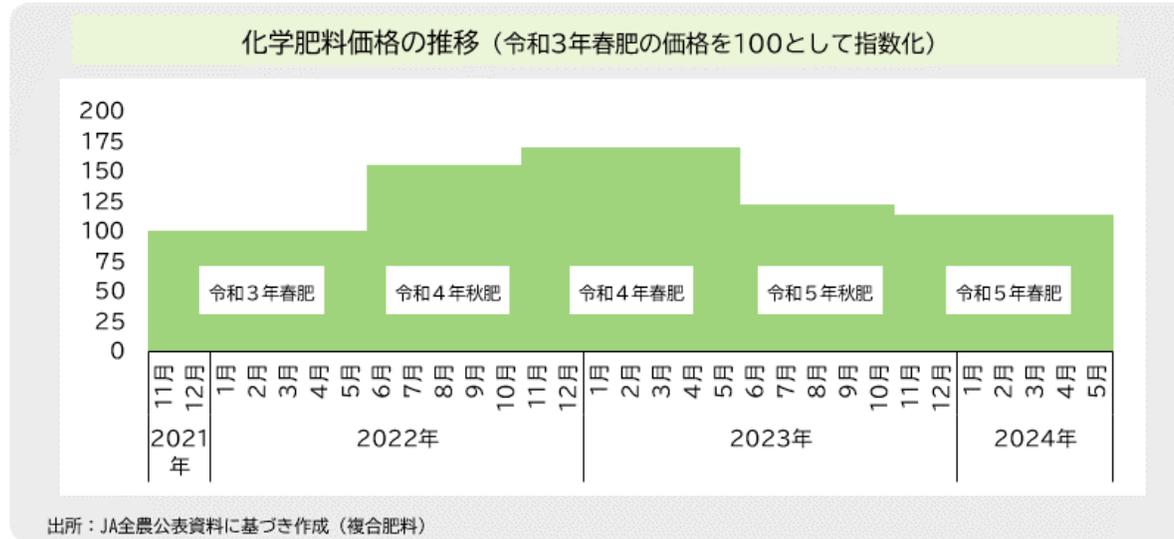
出典：農林水産省「農林業センサス」「農業構造動態調査」

- 35年間で耕地面積は▲4.5%と横ばい
- 35年間で農家戸数は▲65.6%と大幅に減少
- 35年間で農業従事者は▲72.5%と大幅に減少し、うち、60歳以上が45.2%

農家の大規模化が進み、従事者の負担軽減に繋がるスマート農機導入が必須

1. 背景

➤ 化学肥料価格の高騰



中国の輸出規制、ロシアのウクライナ侵攻、円安等の影響により2022年秋以降、化学肥料価格が高騰

出典：農林水産業・食品産業に関するESG地域金融「モデル事例集」より抜粋

➤ 肥料散布時の無駄・ムラ

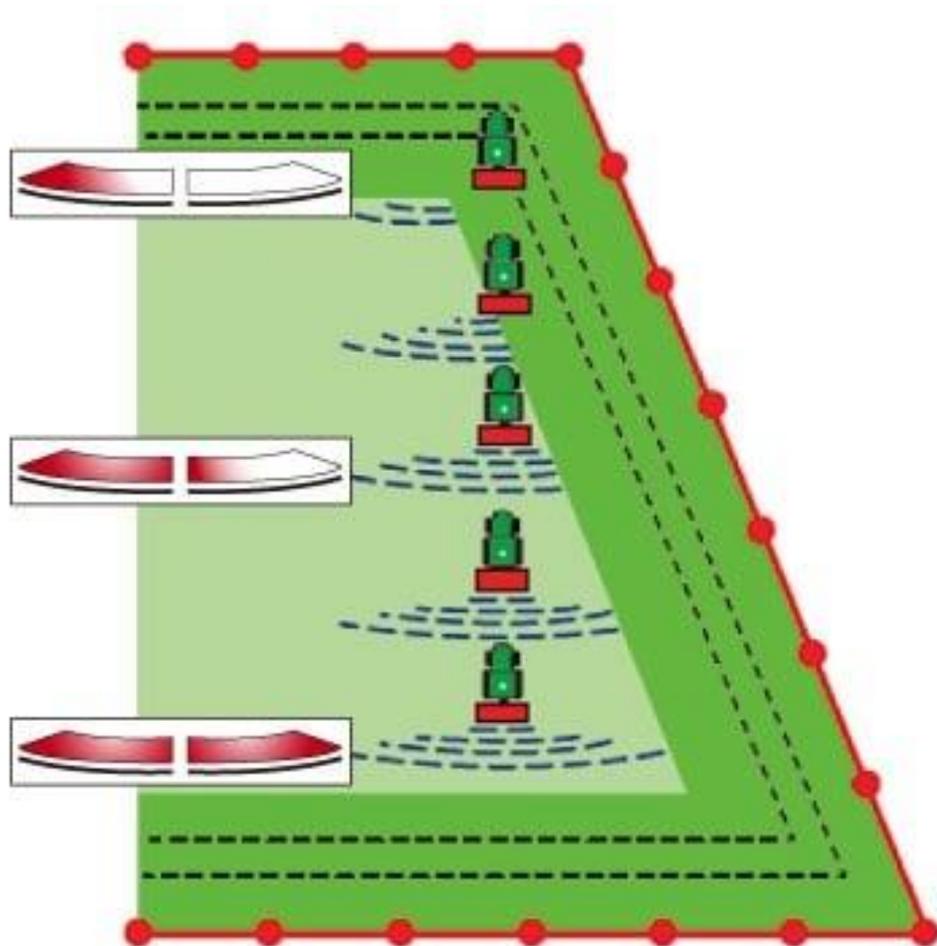
- ・圃場の形状によって、圃場外へ散布してしまう ⇒ **肥料の無駄**
- ・トラクターでの散布の往復時に散布の濃淡が発生 ⇒ **肥料焼け・倒伏リスク・収量減少**

コスト削減と環境負荷軽減のため肥料使用料を削減する必要あり

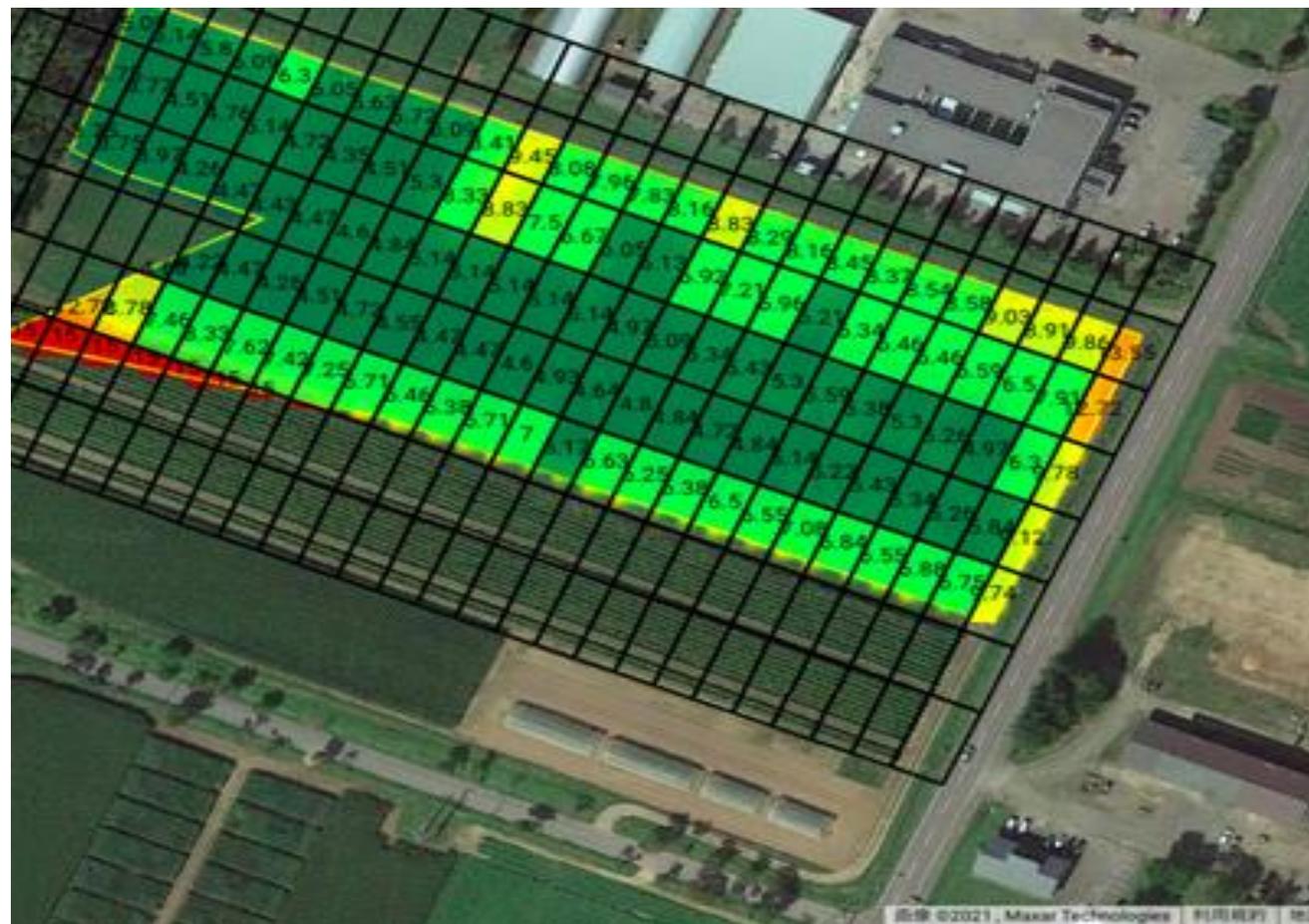
2. 取組内容

北見信用金庫	農機具メーカー 農機具販売事業者	農家
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の基幹産業としての農業への支援と環境負荷軽減への取組みを模索していた ・当金庫にて「ものづくり補助金」を活用した機械導入実績多数 ・農家との繋がりが少ないため、農機具販売事業者と連携 ・営業店職員が農家の課題をキャッチ ・補助金申請支援を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域で販売していたスマート農機をオホーツクでも販売するため、北見信用金庫と情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・施肥作業において、肥料散布の濃淡発生による生育過剰や生育不足による収量損失や圃場外への散布による肥料の無駄が発生していた ・そのため、GPS付肥料散布機「ブロードキャスター」の導入を検討していた ・農機具販売事業者と北見信用金庫職員との会話から補助金活用の提案を受けた

2. 取組内容



セクションコントロール



衛星データを反映した施肥マップ

3. 成果

北見信用金庫	農機具メーカー 農機具販売事業者	農家
<ul style="list-style-type: none"> ・補助金採択 ・補助金以外の資金を融資対応 ・本件を聞きつけた近隣農家と農機具メーカーから、補助金申請支援の依頼が来る <ul style="list-style-type: none"> ⇒役に立つ存在に ⇒残念ながら現在補助金なし ・地域の環境負荷軽減への取組みのきっかけとなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・本件の成功事例が近隣に伝わりスマート農機への問い合わせが増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金申請書作成を通じて投資対効果が明確に ・補助金採択によって、資金負担が軽減 ・スマート農機導入により下記が実現 <ul style="list-style-type: none"> ①肥料の20%削減 ②収量の10%増加 ③トラクター操縦の熟練不要 ・今後の展開として、衛星データを活用した「施肥マップ」を作成し、より効率的な肥料散布を目指す

- 農家数、農業従事者数は全国的に減少の一途
- 北海道においては耕地面積が横ばいで、農家の大規模化が進んでいる
- SDGsへの取り組みとして
 - 化学肥料や農薬を減らす農法
 - スマート農機の導入 ⇒ 補助金等の拡充
 - バイオマス資源の活用
 - 再エネ(営農型太陽光発電等)の導入 ⇒ 規制・技術のブレークスルー
 - 気候変動への適応
 - 人材の確保と育成
- 地域と共存共栄の関係にある信用金庫として、どのような関り・応援ができるかを模索中

ご清聴ありがとうございました



北見信用金庫